

プラウシオン
PROUSION®配合クリームは
ストレスを軽減できるか……？

©橋本政和¹⁾・池田真徠²⁾・榊 信一²⁾

1) 特定非営利
活動法人 日本健康事業促進協会・2) Academy of Total Bio Balance Therapy

【目 的】

PROUSION®配合製品は、末梢血流改善効果を持つことが実証されている。

血流と自律神経系は相関する。

そこでPROUSION®配合クリームを使った施術で、唾液中アミラーゼに変化が見られるかを測定した。

被験者は入室後10分安静にし、唾液アミラーゼモニターにより施術前の α アミラーゼ濃度を測定。その後、二重盲検の元、PROUSION[®]配合クリームおよびPROUSION[®]非配合クリームを使い、20分施術。施術終了5分経過後、2回目の測定を行なった。クリームの成分は同じ。

施術は前腕部と肩、頸部のみとし、圧力はマッサージのような刺激性のあるものではなく、皮膚に触れる程度とした。

施術は**前腕部**と**肩**、**頸部**のみ



圧力は30~40g程度（ほぼ触れるだけ）



唾液アミラーゼモニター

ニプロ社製 唾液アミラーゼモニター

(医療機器届出番号: 27B1X00045000110)

ストレス値が高まり交感神経が興奮すると、唾液中のアミラーゼ活性(SAA)が高まる。

SAAは血漿ノルエピネフリン濃度と相関関係がある*。これを利用したのが唾液中のアミラーゼモニターである。

またこのシステムは、慢性ストレスよりも急性ストレスに反応する。

唾液中のアミラーゼが、チップの試験紙に含まれる α -2-クロロ-4-ニトロフェニル-ガラクトピラノシルマルチドを加水分解し、2-クロロ-4-ニトロフェノール(CNP)を生成する。

生成したCNPによる試験紙の反射光強度変化を本体で測定し、アミラーゼ活性値に換算する。

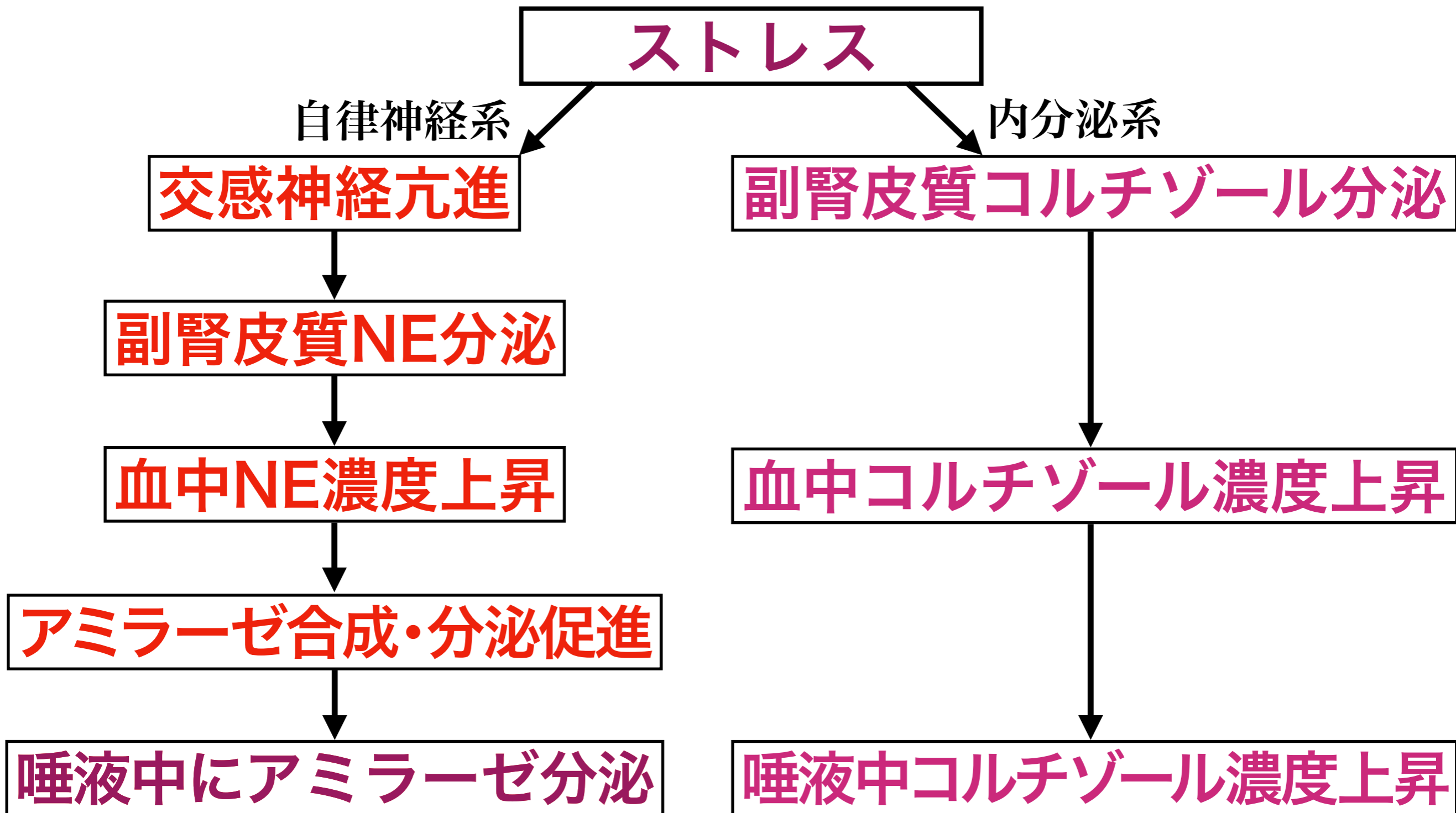
ストレス

↓ 内分泌系

副腎皮質コルチゾール分泌

血中コルチゾール濃度上昇

唾液中コルチゾール濃度上昇



【測定上の注意】

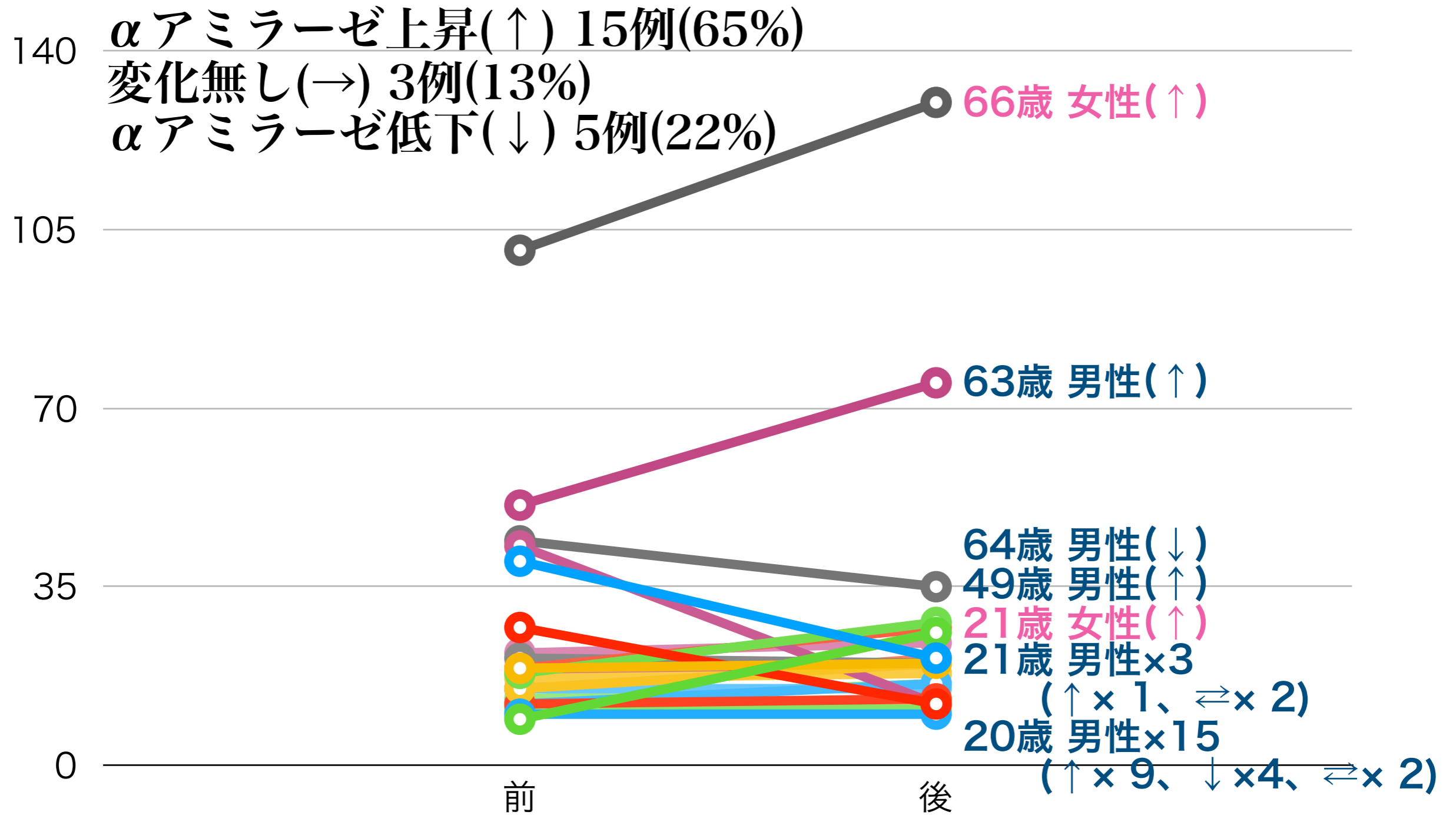
- 食後すぐに測定すると消化の影響で高い値が出ることもある為、食後1～2時間後に測定する。
- 飲み物や、うがい後は唾液が薄まり低い値が出るので、5分以上おいてから測定する。
- 高齢者は唾液の分泌量が少ない為、前後変化を測定しづらいことから、被験者は20～69歳までとした。
- 唾液は、耳下では α アミラーゼ以外の成分が多くなる為、舌下で摂る。

唾液アミラーゼモニター測定結果の評価

アミラーゼ測定値	ストレス評価
0~30 KU/L	極 少
31~45 KU/L	少
46~60 KU/L	多
61 KU/L 以上	過 多
200 KU/L	上 限

KIU= kiro Unit = 1,000単位

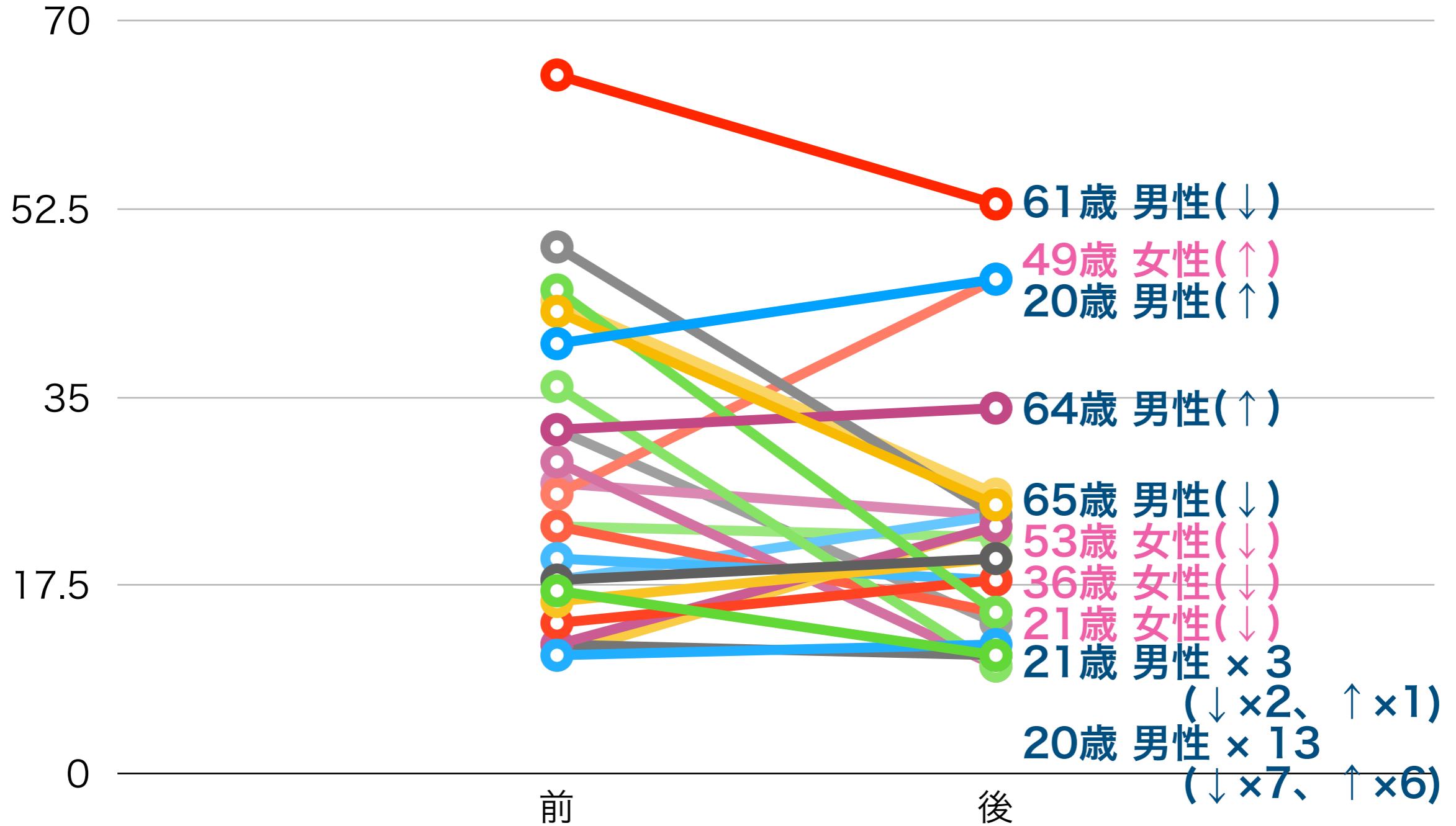
PROUSION® 無し



n = 23

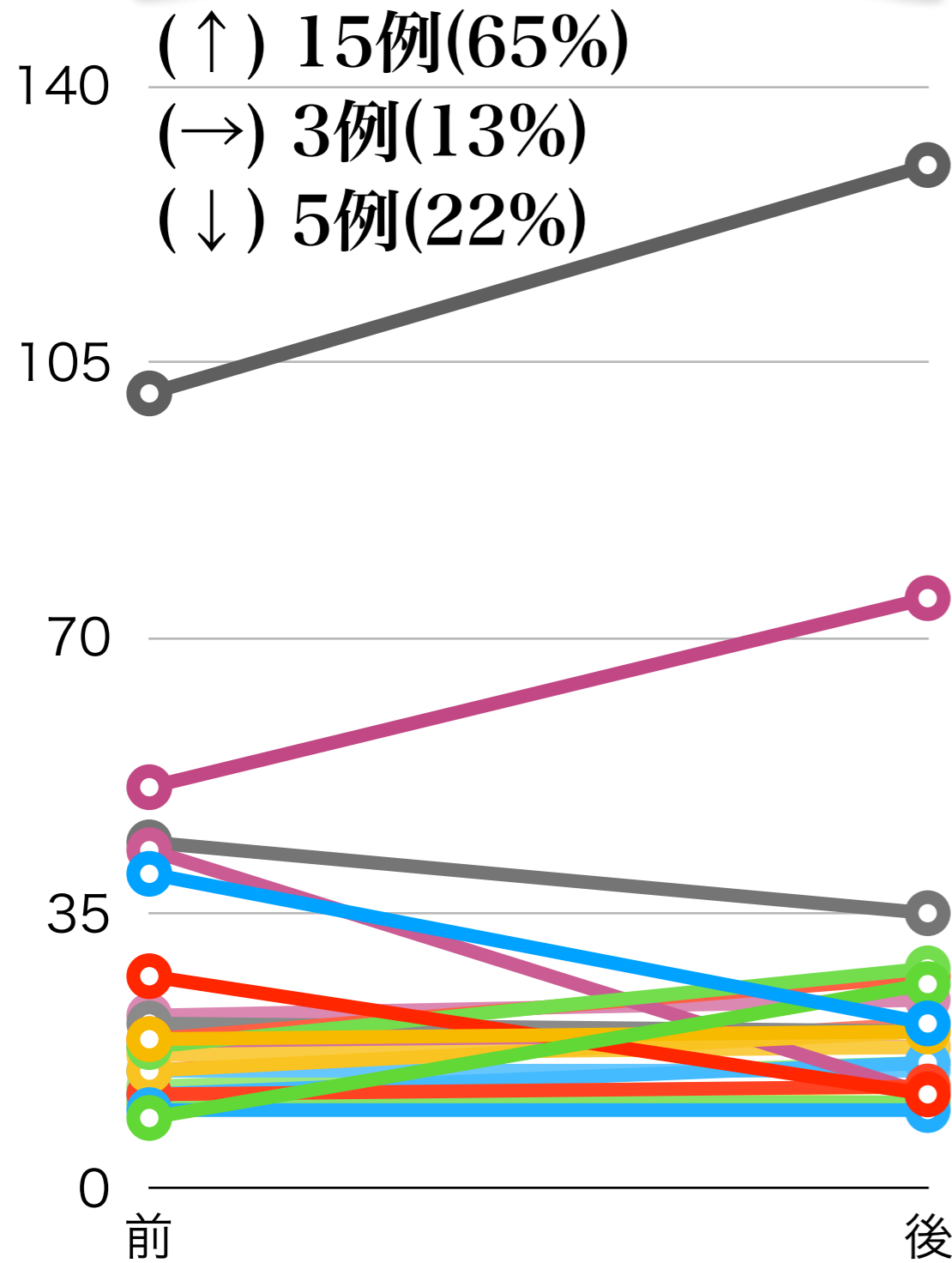
PROUSION® 有り

αアミラーゼ上昇(↑) 10例(43.5%) αアミラーゼ低下(↓) 14例(56.5%)

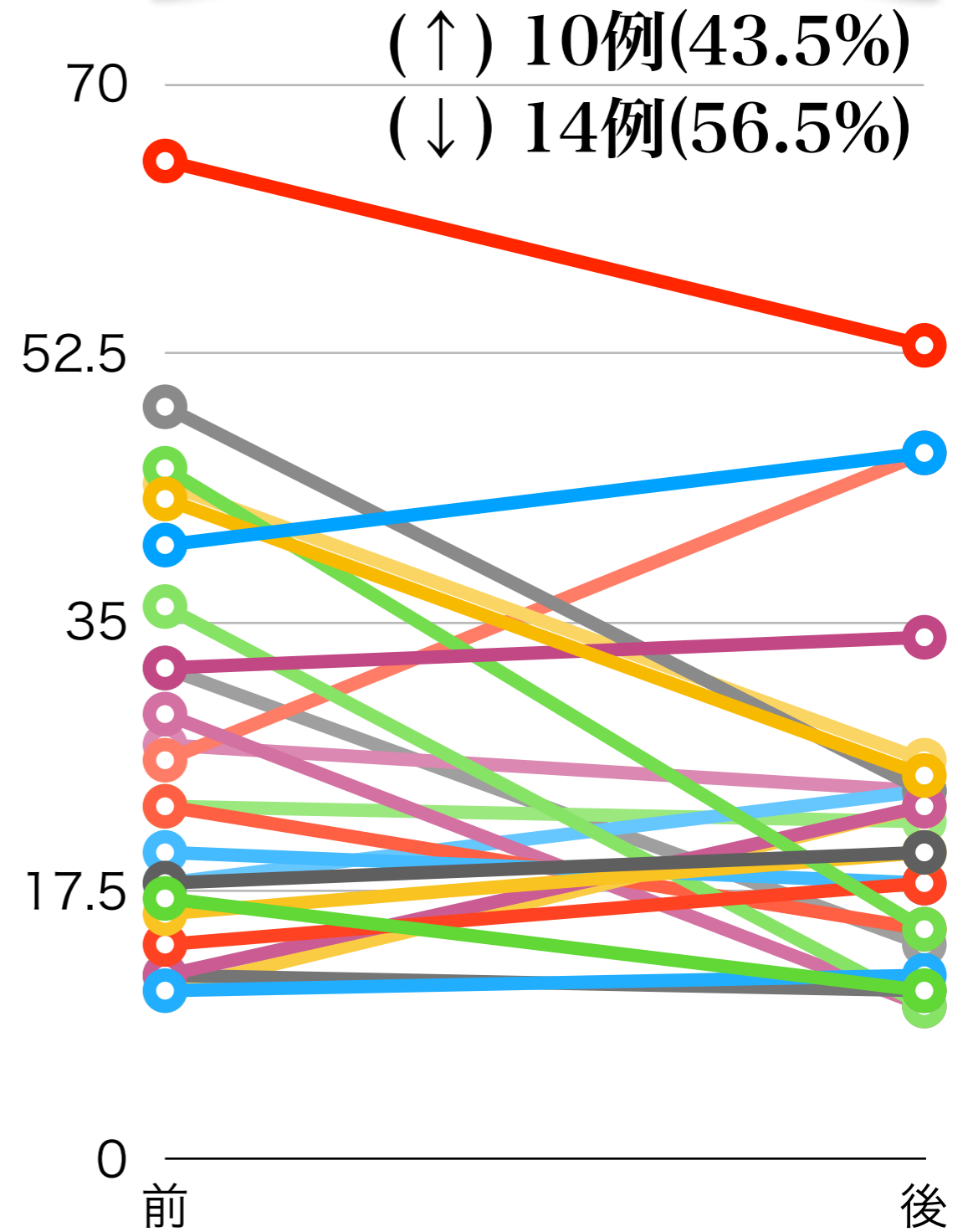


n = 24

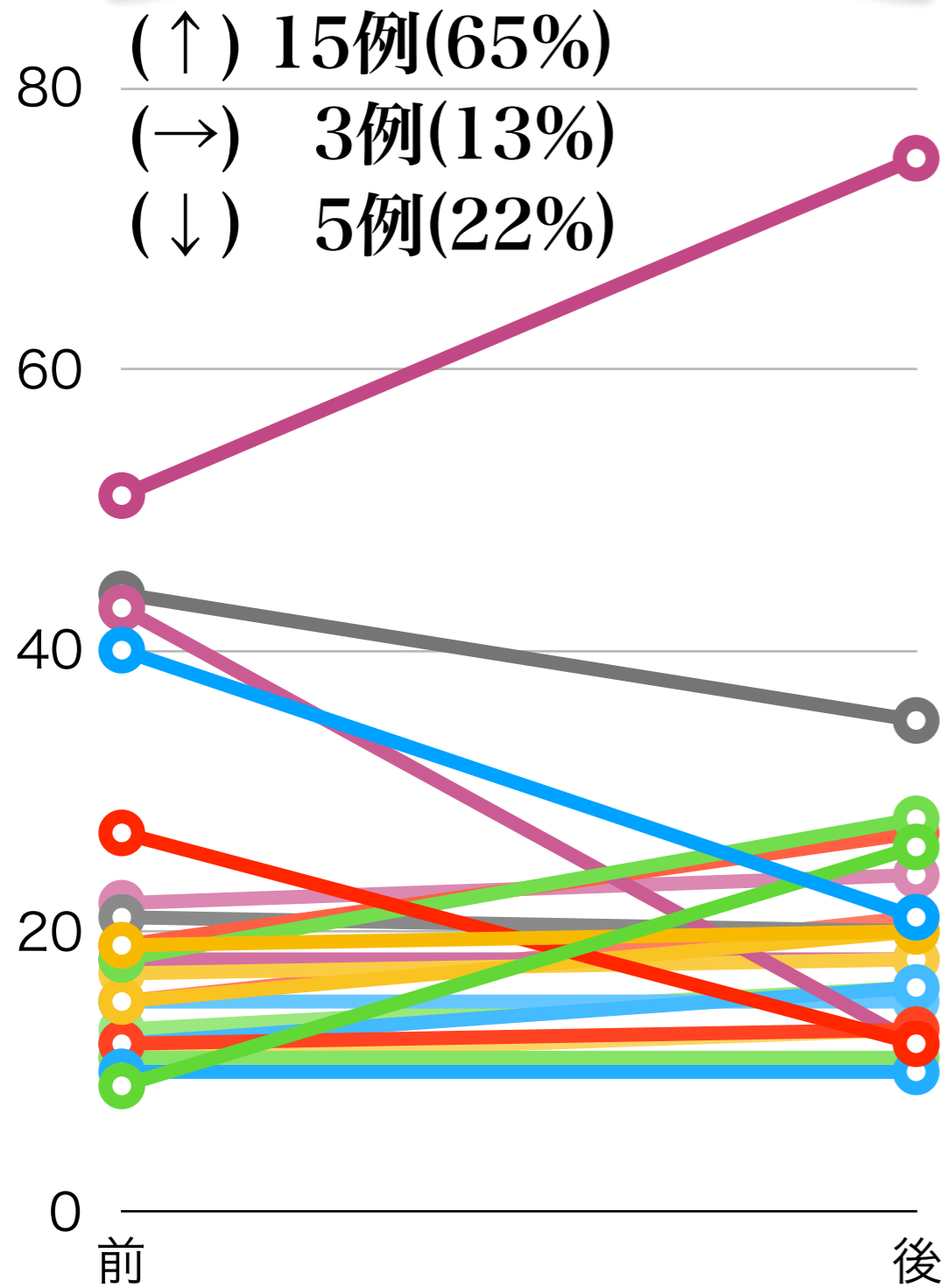
PROUSION無し



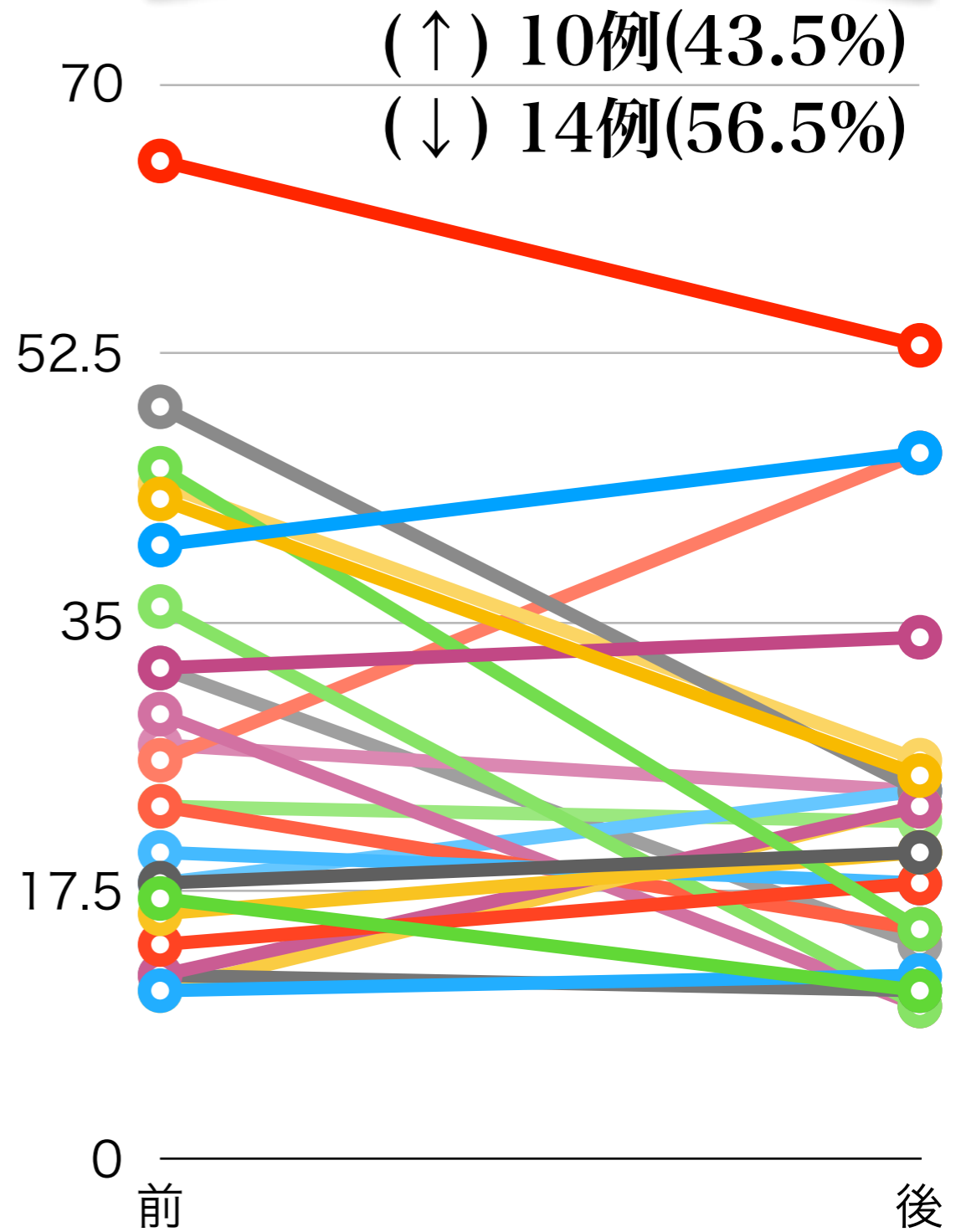
PROUSION有り

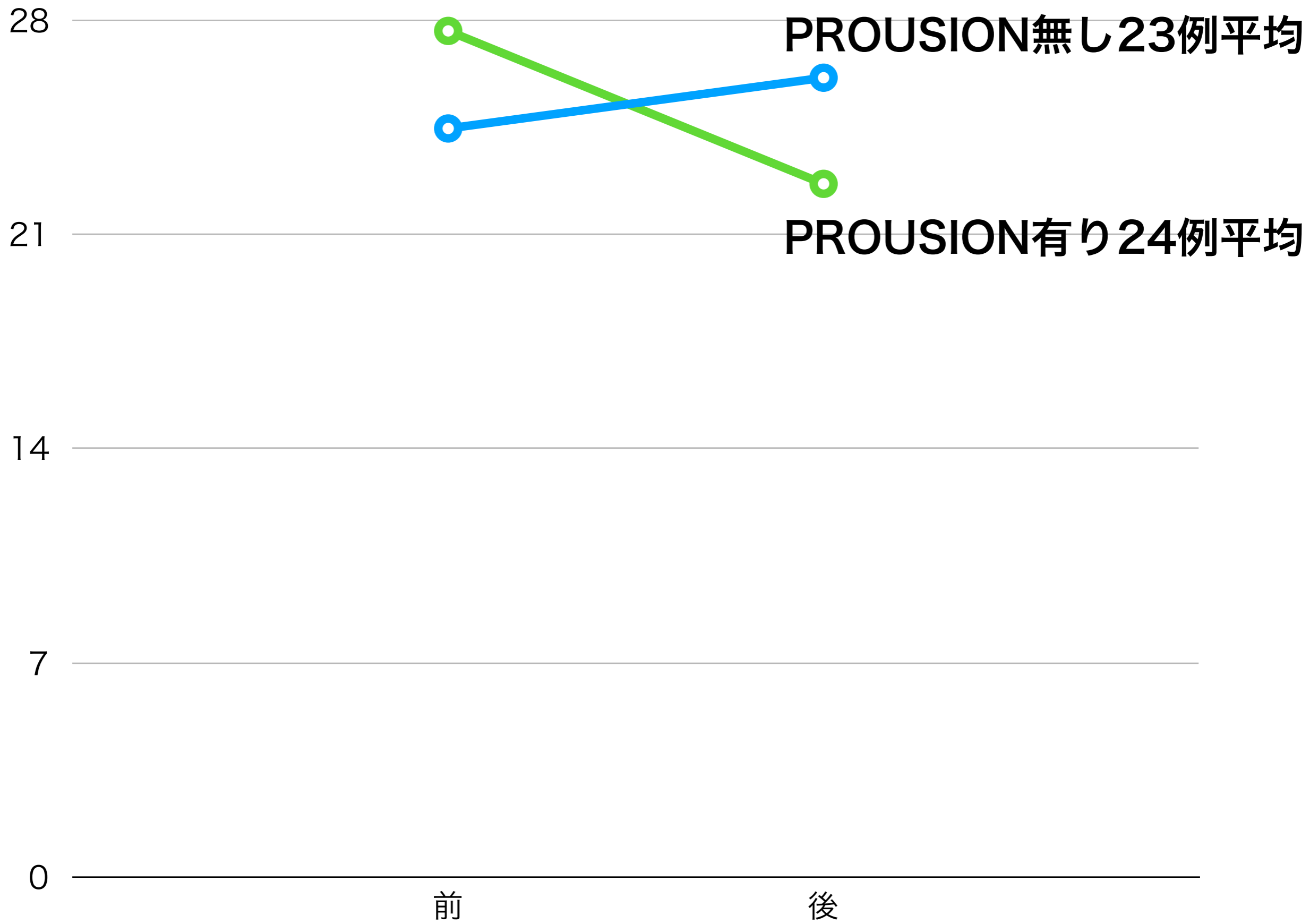


PROUSION無し

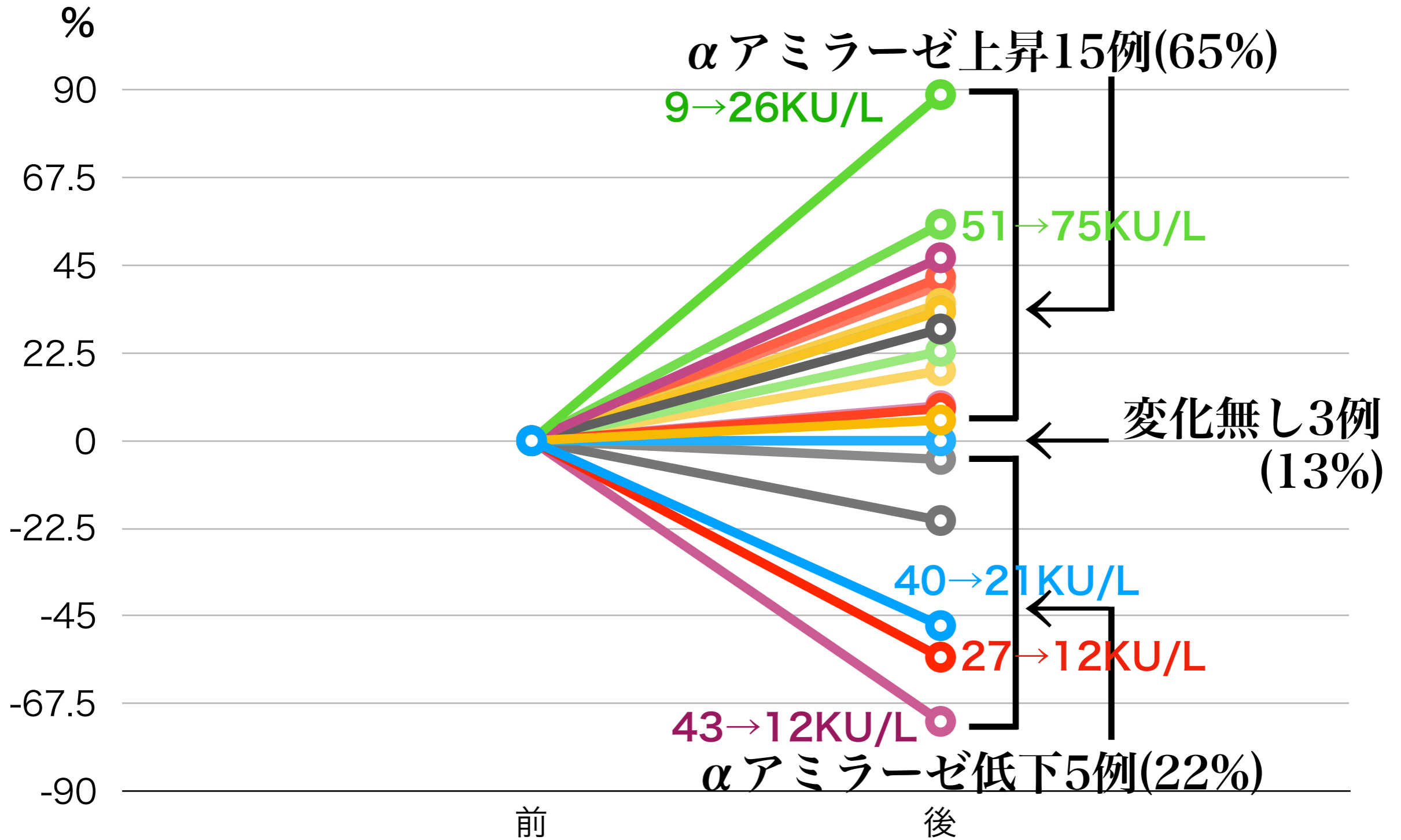


PROUSION有り



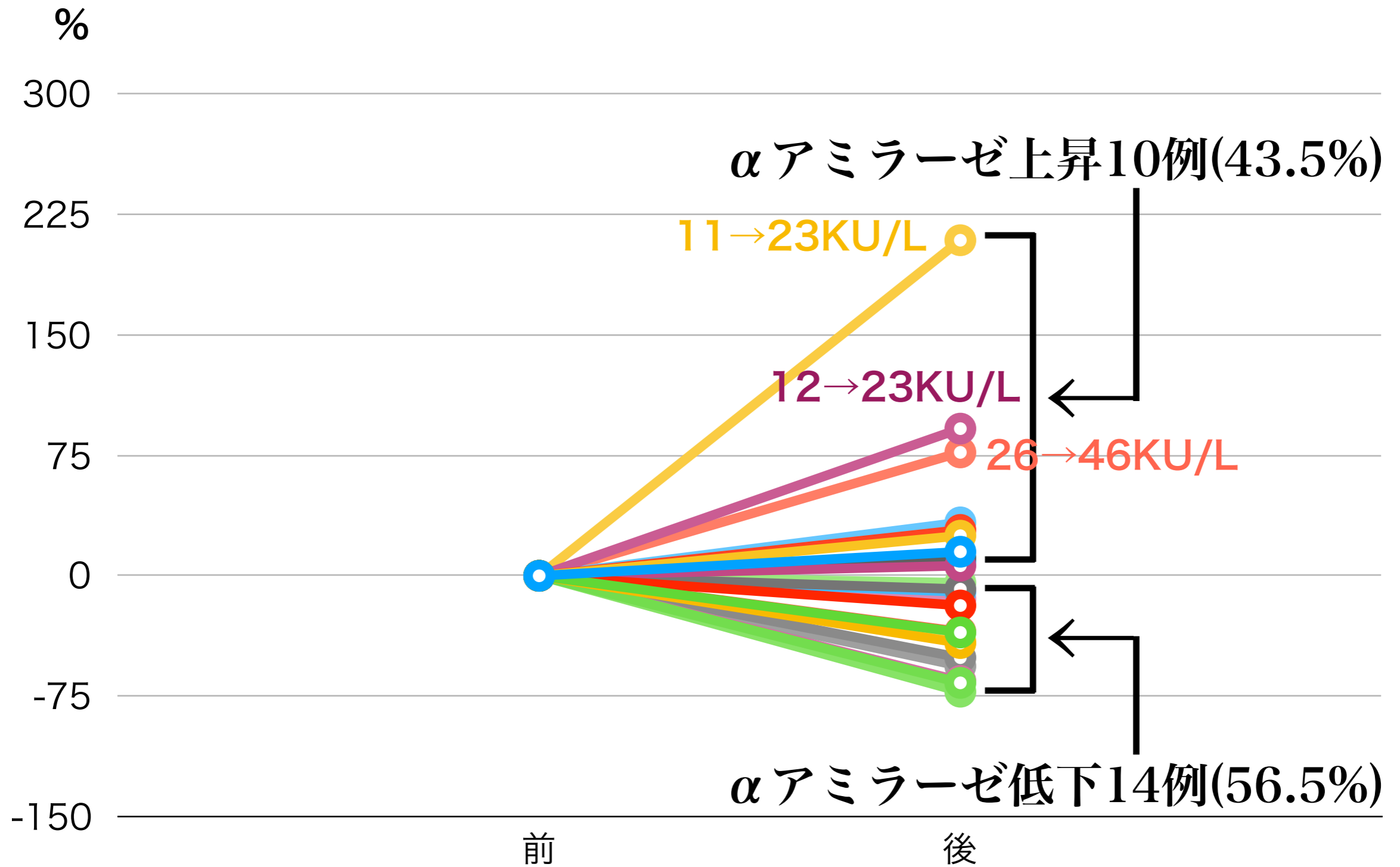


PROUSION® 無し



n = 23

PROUSION® 有り



n = 24

【結 果】

PROUSION[®]配合の有無に関わらず、施術による反応でも α アミラーゼ濃度に変化が起きた。但し配合の有無の比較では、明らかにPROUSION[®]配合クリームによる施術の方が α アミラーゼ濃度の低下を示した。

PROUSION[®]配合クリームと筋膜施術は、血流改善のみならず、自律神経系の興奮抑制に寄与することが示唆された。

TBBL

Total *B*io *B*alance *T*herapy

